

## 【優秀賞】

団体名	今金町山村活性化地域協議会
活動の内容（概要）	行政、商工会、農協、企業、福祉施設等と北海道今金高等養護学校やPTAとが連携してキャリア教育に取り組んでいる。生徒の就労、自立を支援する事業が推進されるだけでなく、地域住民の障がい者理解や障がい者が地域の一員として活躍する共生社会「ソーシャルタウン今金町」づくりを実践している。

### 受賞理由

- ・障がい者雇用促進と町の基幹産業の活性化という学校と地域の課題をマッチングさせた地域活性化に結び付ける発想を評価した。共生社会構築の一つのモデルとなり得る。さらに、障害者の生涯学習の推進という視点も持つ企業関係者の関わりは高く評価できる。
- ・意識調査、実証実験を基に進められていることも説得力があり、ワークシェアリングの活用や現場の不安が大きい雇用者向けの「障がい者雇用のためのマニュアル・ブック」を作成された成果は、継続化に向けた取組として評価できる。また、インターンシップに変わる手厚い支援をPTAが担ったところに発展性を感じる。
- ・4年間の活動の中で、連携の輪を広げながら地域、学校双方に成果を上げている。地元商工会が注力するなど特色も認められ、今後に期待したい。
- ・ノーマライゼーションが進む中、特別支援学校の教育活動を核に生徒の自立を促すキャリア教育が、地域ぐるみで展開されている。障がい者の雇用課題についても、地元での一般就労という形で成果を上げている。また、通常の生徒との交流による教育活動も大きな意味を持ち、生徒の成長に大きな変容を与えている。

### 連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等の機関や団体）】

北海道今金高等養護学校

【行政や地域・社会、産業界等】

今金町、今金町商工会、JA 今金町、社会福祉法人光の里、株式会社 TTN コーポレーション、株式会社 TAISHI

### 活動開始の経緯

【活動開始時期】平成26年～ 【継続年数】4年

学校側の「卒業生の今金町内のユニバーサル農業への就労促進」、今金町商工会の「町の基幹産業の農業と商工業のワークシェアによる通年雇用、定住人口の増加」を図りたいという願いから、平成26年度に今金町商工会が「にぎわい！今金」コミュニティビジネス創出による地域力再生プロジェクト事業を開始した。平成27年度末には、「オール今金」として取り組むために「今金町山村活性化地域協議会」が発足した。

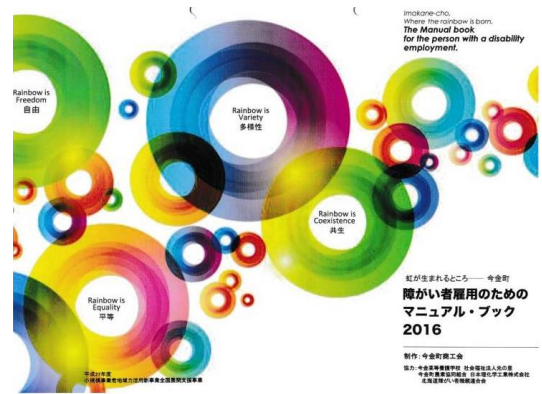
## 「協力性」についての具体的な取組、工夫している点など

平成 26 年度は、今金町商工会、今金町、JA 今金町、北海道今金高等養護学校、社会福祉法人光の里が年間 4 回程度のプロジェクト委員会を実施したほか、生徒・保護者・教員・農業経営者・商工業者への意識調査の実施、障がい者雇用等に関する町民ワークショップ、先進事例の視察検討などを行った。

平成 27 年度は、高等養護学校と商工会が連携・協力して、職場実習実験と雇用シェアリング実証実験を行い、障がい者の採用の見通しを把握するとともに、事業主の雇用に当たっての不安を解消するために、商工会と学校が協力して「障がい者雇用のためのマニュアル・ブック」を作成している。

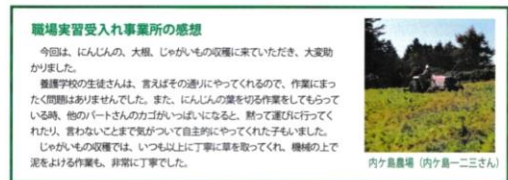
平成 28 年度はこれまでの構成員に、JA の青年部と女性部が参画して、今金町山村活性化地域協議会が発足し、地元名産品の「今金男爵」を用いたコロッケの販売実証実験、加工場の検討などを行った。

さらに、北海道今金高等養護学校は障がい者が地場産業の担い手となって地方創生に貢献できるよう、模擬株式会社を設立し、地域の関係機関の業務の補助的なスタッフとして活動する「地域学校協働活動」を行っている。この活動では、役場や総合福祉施設での補助作業のほか、地域イベントの企画・運営・参加に加わり、地域住民の障がい者理解を深めるとともに、障がい者が地域の一員として活躍する共生社会づくりにつながっている。



### 職場実習受入れ事例集

④内ヶ島農場（にんじんの収穫作業）



<障がい者雇用のためのマニュアル・ブック>

## 「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など

平成 27 年度には、今金町、今金町商工会、TTN コーポレーションが三者による「障がい者雇用を中心としたコミュニティビジネス創出に関する連携協定」を結び、相互の連携と継続した取組を実現した。平成 27 年 12 月に策定された地方版総合戦略において、基本戦略の基本目標に「高等養護学校卒業生が地域産業の担い手となる活躍の場作り」が掲げられ、障がい者を地方創生の担い手とする町のビジョンが定められた。

平成 28 年度には、今金町は北海道今金高等養護学校と就労支援及び自立支援に関する連携協定を結び、在学中の現場実習から卒業後の就労支援と自立支援を行うことができるようにした。

平成 29 年度は、まちづくり株式会社化を目指す一般社団法人 i・スマイルが設立されて卒業生の雇用が開始されるとともに、TTN コーポレーションでの雇用も開始された。事業内容は本協議会において共有し、事業の評価と次年度の改善策の検討を行っている。

## 「実践性」についての具体的な取組、工夫している点など

町の人口減少による農業の担い手不足の解決のため、平成 26 年度に生徒・保護者・教員・商工業者・農業経営者のニーズの洗い出しを行い、条件を整えば生徒・保護者及び雇用者側にも就労や雇用のニーズがあることを明確にした。平成 27 年度には就労上の課題の明確化と解決策を策定するために職場実

習実験を行い、障がい者が作業しやすい補助具の工夫や作業しやすい作業種の確認を行うとともに、就労に向けた生徒の課題を明確化して、個別の指導計画の見直しと指導の改善を図った。そして、通年雇用を実現するために、雇用シェアリング実証実験を行った。平成 28 年度は商工会と JA 今金町の協力により、地元就労を目指す生徒を対象とした農業実習や販売実習を実施した後、学校の作業学習で



<職場実習実験の様子>

個々の課題の解決を図る指導を行い、町内での一般就労を実現している。

※ 職場実習実験では、延べ 92 名の生徒が延べ 77 日間、12 事業所（農業・商業等）で職場実習を行った。

### 「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

今金高等養護学校 P T A は、平成 29 年度に「模擬株式会社 IMAKANE FACTORY」を P T A 会長を代表取締役として設立し、生徒の卒業後の職業生活への円滑な移行ができるように支援を開始した。

生徒は、作業学習を模擬株式会社の仕事として取り組み、課題解決力や商品開発力、販売力を高めるために、飲食店からの皿の受注や社会教育施設からのポチ袋・レターセットなど（紙すき製品）の受注生産を行っている。

今金高等養護学校は、北海道八雲高等学校の協力を得て、地域の定番土産商品を目指してショコラクッキーの商品開発に取り組み、光の里の多機能型事業所ワークショップいまかねが製造し商品化した。9 月には両校の生徒が北海道高等学校商業教育フェアで商品を販売している。

### 学校現場の評価・感想・コメント

・北海道教育庁特別支援教育担当局長のコメント

今回の今金高等養護学校の取組（模擬株式会社）が、全道の高等養護学校や高等支援学校などへのイノベーションとなることを期待している。

・北海道今金高等養護学校担当教員の感想

生徒は、お客様のことを考えるという視点を持つようになり、組織の中で自分はどのような役割を担うべきか考えるようになった。また、知識や技術を習得しようという意識が高まり、正確な知識と技術の習得に向けて努力するようになった。また、障がいの自己理解と長所を生かした責任ある業務遂行を意識化、行動化するようになった。

### 関係諸機関（行政・産業・地域団体等）からの評価・感想・コメントなど

・今金町役場から

障がい者雇用と住む場所作りが進められ、着実に「今金町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン及び総合戦略」に基づいた事業が成果を挙げている。

・関係企業関係者から

卒業後の余暇や生活の過ごし方への何らかの支援が必要である。現在、高等養護学校が地域イベントに積極的に参加したり、今金町体育協会と連携して軽スポーツを同窓会で実施していることは良い活動である。

・地域住民から

障がい者がまちづくりの担い手となる一般社団法人 i・スマイルの設立と活動は、共生社会の実現に迫る画期的な取り組みであると思う。